第2章　区の現状と課題

1. 計画の進捗

改訂前の計画では、5 つの基本目標と共通目標ごとに個別の施策および指標を掲げるとともに、5 つの重点プロジェクトにおいて、目標達成のための重点的かつ計画的な推進を図ってきました。2022（令和 4）年度現在の進捗と主な評価をまとめると下図のとおりです。

計画（改訂前 ）		主な評価（2022（令和 4）年度時点）
基本目標 1 「低炭素な暮らし・仕事・まち」を実現する （地球温暖化対策）	①地球温暖化を防ぐ計画を定め、実行する★ ②エネルギーの使用を削減する★ ③エネルギーの低炭素化を図る ④気候変動に適応する取組を推進する ⑤地球温暖化対策に関する情報を共有する	温室効果ガス排出量、再生可能エネルギー導入量は順調である一方、区民参加型の施策には取組余地が残っている
基本目標 2 「持続可能な循環型都市」を実現する （資源循環）	①ごみの発生抑制を推進する ②資源リサイクルを推進する ③情報提供と区民参加を推進する★ ④適正処理を推進する	ごみの発生抑制、適正処理は順調である一方、資源リサイクル・区民参加型の施策には取組余地が残っている
基本目標 3 「水とみどりがつなぐまち」を実現する （自然環境）	①水とみどりを守り育てる ②水とみどりが身近にある豊かな暮らしをつくる ③品川らしい水とみどりを継承しまちづくりに活かす★ ④みんなで水とみどりを育む	水環境の保全や水辺空間の整備は順調に達成しているものの、みどり率は減少傾向にある
基本目標 4 「すこやかで快適な暮らし」を実現する （生活環境）	①すこやかな暮らしを守る ②建物の環境配慮を推進する ③人にやさしい地域づくりを目指す	大気等の環境保全、建物の環境配慮、バリアフリー化ともに順調である
基本目標 5 「やすらぎとにぎわいの都市景観」を形成する （文化環境）	①歴史や文化を大切にし、魅力あるまちなみをつくる	景観重点地区*に 1 地区追加指定
共通目標 次世代につながる「日常的に実践する人」を育てる （環境教育・環境コミュニケーション）	①環境情報を発信する ②環境学習・体験を推進する★ ③協働により環境活動を推進する★	区民参加型の施策には取組余地が残っている （品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」の開設による体験型環境学習の機会提供開始）

★ 重点プロジェクトを有する施策

※紫が目標（指標）の未達がある項目。
なお、区民参加型の施策は、2018（平成 30）年度までは順調に推移しているものもあり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響を受けていると想定される。

区民参加型の取組については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、温室効果ガス排出量やごみ、生活環境など主要な項目は達成に向けておおむね順調に推移している。

図 2.1　計画（改訂前）の主な評価

2. 計画改訂の視点

（1）地球温暖化対策分野

●エネルギー利用の削減

省エネルギーの取組が浸透し、二酸化炭素の排出量は減少していますが、脱炭素社会の実現に向けて、さらなる省エネルギーの徹底や、既存の住宅・建築物に対しても高断熱・高気密化等に向けた取組を強化する必要があります。

●脱炭素（再生可能エネルギー、水素エネルギー等）へのシフト

脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの技術は大きな変動期を迎えており、今後もさらに新たな技術の発展が見込まれています。化石燃料*から再生可能エネルギーへの転換や貯蔵・運搬が可能な水素エネルギーの利用拡大が必要です。

●気候変動への適応

地球温暖化に伴う気候変動により、ゲリラ豪雨などによる浸水被害の発生、熱中症や蚊が媒介する感染症の拡大といった健康被害も想定されることから、防災、健康・福祉など他分野とも連携し地域の防災・減災力の強化対策や区民の防災意識の向上、熱中症予防の普及・啓発などを実施していくことが必要です。

（2）資源循環分野

●ごみ減量・資源化の推進

区の家庭・事業系ごみの排出量は、長期的には減少傾向にありますが、近年は横ばいの傾向にあり、排出されたごみの中には、食べ残し等の「食品ロス*」や古紙類等のリサイクル可能なものが多く含まれています。このため、今後も引き続き、さらなる減量化・資源化の推進に向けた効果的な取組を進める必要があります。

●食品ロス対策・プラスチックごみ対策

世界的な天然資源制約と人口増加による需要の高まりが続く中、大量消費型のライフスタイルを見直し、ライフサイクル全体における環境配慮を進める必要があります。食品ロスについては、区内で多量の食品が廃棄されている実態を踏まえ、飲食店や小売業などの事業者や区民と一体となって削減に取り組む必要があります。プラスチックについては、使い捨てプラスチック対策やプラスチックごみの再資源化を見据えた、区全体のリサイクルシステムの再検討が必要です。

**●サステナブルファッション*　**

ファッション産業は、製造にかかる天然資源やエネルギーの使用量、ライフサイクルの短さなどから環境負荷が非常に大きい産業と指摘されており、国際的な課題となっています。国内では、ファストファッションの流行やネット販売の普及により、衣服一枚当たりの価格は減少する一方で、年間で多くの衣服が手放され「ごみ」として廃棄されています。

メーカによるサステナブルな材料を用いた商品の開発や、消費者としては長く着続ける衣服の選択やリサイクルの推進など、双方の取組が求められています。

（3）自然環境分野

●都市整備に伴う生き物の生息・生育環境の変化

区では、公園や河川・運河沿いの水辺や公園にまとまった生き物の生息・生育環境があるほか、街路樹や人工池などの身近な自然にも鳥類や昆虫類が確認されています。しかしながら、独立住宅の建て替えなどの都市の再整備によるみどりの減少も確認されており、より身近な自然を保全する必要があります。一方で、まちづくりの進展により、新たに創出されるみどりや水辺もあり、区内の生き物の生息・生育環境が大きく変化する中でも、生物多様性を確保していく必要があります。

●品川らしい水とみどりの保全・創出と次世代への継承

区の特徴である河川や運河などの水辺、寺社林・史跡などの昔からあるみどりは、長い歴史とともに形成されたものであり、適正な保全とより魅力ある空間の創出により次世代に継承していく必要があります。また、再開発等による新たなみどりの創出は、次世代以降も生物多様性を確保しながら更新されていけるようにする必要があります。

●生物多様性の理解の向上

生物多様性地域戦略の新たな策定により、自然環境への関心を高め、生物多様性の保全に向けた取組を推進する必要があります。

（4）生活環境分野

●良好な生活環境の保全

大気や水質は年々改善が進んでいます。今後も継続して、適正な環境監視と発生源対策を推進するとともに、新たな環境課題については関係機関と連携しながら的確な対応を進める必要があります。

（5）文化環境分野

●品川らしい景観の維持

長い歴史の中で形作られた旧東海道のまちなみや、品川浦の水辺空間など、歴史的・文化的資源を保全しながら、自然や文化との調和に配慮した魅力ある景観を維持する必要があります。

（6）環境教育・環境コミュニケーション分野

●身近な環境課題に取り組む人づくり

品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」を核とした環境課題に関する講座やイベント等による普及啓発、ターゲットの属性やニーズに合わせた情報発信により、多くの区民や事業者が環境課題を自分のこととしてとらえ、環境課題解決につながる行動へ結びつけていくことが重要です。

●区民・事業者・関連団体との協働

引き続き、区民・事業者・関連団体との協働・連携をさらに深め、環境意識の向上を図る必要があります。